

下市町で「第7回全国かぶと虫サミット 2003」開催

5月10日、下市観光文化センターで「第7回全国かぶと虫サミット 2003」（下市地域づくり推進会議主催）が開催された。同サミットは、カブトムシを地域づくりに役立てている自治体や、幼虫の生産団体で構成される「全国カブトムシ幼虫研究協議会」が毎年開催している。今回は、青森県深浦町、岩手県東和町、福島県常葉町、兵庫県市川町、和歌山県「清洲の里」など14団体が参加した。

下市地域づくり推進会議のメンバーが、自分たちの子供の頃、山でカブトムシを捕まえて遊んだ経験を昆虫と接する機会の少ない今の子供達にも経験させたいと、99年に「かぶと虫の森」を町内に開設した。毎年7月上旬～8月上旬までの開館だが、近畿各地から家族連れが約4,000人訪れる。下市町もふれあい人口の増加を歓迎、同推進会議を支援している。

同サミットでは、全国各地から持ち寄られたメスの幼虫の“美”を競う「幼虫ミスコンテスト」、幼虫の重さを競う「ジャンボコンテスト」、昆虫写真家の海野和男さんの講演が行われた。また、成虫を放すミニドームも開設され、子供達が虫の木登りなどで遊んでいた。（上田）



カブトムシと遊ぶ子供たち